



AMERICAN ACADEMY of ACTUARIES

Objective. Independent. Effective.™

ロバート・ベアーリン、
MAAA、FSA 会長

トーマス・F・ワイルドスミス 4 世、
MAAA、FSA 前会長

2017 年 5 月 4 日

IAA 執行委員会会員各位

私たちは、提案された新しいシラバスに関する議論を IAA 審議会が成功に導いた過程に関する米国アクチュアリーアカデミー (American Academy of Actuaries) の考えをお伝えするために当書状をお送りしています。

新シラバスは重要で価値ある技術的な成果であるという大筋での合意があります。IAA は、正会員会 (Full Member Associations、以下「FMA」) の教育プログラムの開発および改善をサポートする重要な役割を担っているという大筋での合意があります。IAA 会員は、当該の管轄区域におけるアクチュアリー職の発展に尽力している正規のアクチュアリー職団体に限定される必要があるという大筋での合意があります。さらに、権限移譲 “subsidiarity” が引き続き IAA のガバナンスの基本原則であるという大筋での合意があります。

過去 18 か月間の議論が明確になってきているように、米国アクチュアリーアカデミーをはじめとする多くの FMA の中心的な問題がガバナンスのひとつです。私たちは、審議会での新しいシラバスの採用を成功させる提案においては、内部規定と法令により認められている通り、権限移譲 “subsidiarity” の原則にある FMA の権利が削減されないことがシラバスに明確に述べられている必要があると考えます。これは、ブダペストで開催された直近の審議会にて IAA のリーダーシップが行ったプレゼンテーションが意図していたものであると私たちは考えます。ここでは、シラバスの採用に基づいて前進する一方で、「その他のことは現状維持」とすることが提案されています。ただし、複数の審議会の代表者が指摘した通り、詳細が重要となります。議論の進展を願い、私たちは審議会に次の決議の文言を提案します。

IAA 認証評価委員会・審議会 (Accreditation Committee and Council) に、会員向けの適用を検討する際に使用する効果的なツールを提供し、また、正会員会に、管轄区域内のアクチュアリー教育の質を向上に向けて使用可能な最新の将来を見通したシラバスを提供するために、審議会は、新しい IAA 教育シラバスとして 2016 年 2 月のシラバス審査委員会報告書の第 II 節 (“Updated IAA Education Syllabus”) から “learning areas” および “topics/subtopics” を採用します。

権限移譲 “subsidiarity” の原則に一致して、IAA 内部規定の 2.2.2(d) 款で認められている通り、新しいシラバスの採用により、各国・地域のニーズにシラバスを適応するにあたり FMA の権利が削減され、

責任が軽くなることは決してありません。「教育シラバスの構成要素は、異なるアクチュアリー協会ごとに違う重みを与えられる場合があり、教科は調整され、また、教育シラバス内のさまざまなトピックからの資料は必要に応じて教育システムで組み合わせることができます。教育システムは、教育シラバスの各部分に狭く焦点を当てるのではなく、対象範囲の深さ、広さの間の全体的なバランスを基準にして評価できます。」シラバスは、FMA が適応し、自身の教育プログラムを改善するうえで使用すべきツールであり、執行する仕組みではありません。新しいIAA 教育シラバスの採用により、FMA の権利や特権が削減されることは一切ありません。

新しいシラバスで改訂された用語に一致させるよう、教育ガイドラインに最小限必要な変更を行います。具体的には、用語の“subject”は“learning area”に置き換えられ、“topic”は“topic/sub-topic.”に置き換えられます。前項で説明した通り、FMA の権利がこれらの変更で侵害されることはありません。

権限移譲“subsidiarity”の原則では、グローバルのアクチュアリーの職業の極めて大きな多様性を基本的に正しく評価しています。個々のアクチュアリーが特定の管轄区域で実施する上で適合し、条件を満たしているかどうかは、やむを得ず各国・地域の事柄になります。アクチュアリーの活動は管轄区域に限定されます。これは地域の法律、規制、ビジネス慣行、市場を反映し、世界各地で異なります。これは弱みではなく、むしろ強みです。地域志向、そして地域のガバナンスが、教育の質の高さと矛盾するものだと思ひ込むのは誤りです。FMA の教育プログラムの目標は、会員が当管轄区域の一般の方々のニーズに応えられるようにすることであり、これは会員が活動を行っている特定の法環境、規制環境、経済環境を基準にして初めて評価することができます。この評価は、グローバル組織では効果的に実行できません。各国・地域の FMA の責任にとどめる必要があります。

当アカデミーは、各州が独自の保険法令を有し、全米 50 州で実施されているアクチュアリーを統制する職業基準の確立に責任を負います。当アカデミーには確固とした適切な職業基準を維持する半世紀にわたる実績があるために、米国のアクチュアリーの職業は、自身を統制する継続的な権利を獲得します。これは、アカデミーが設立された当初の目的でもあります。当アカデミーは、管轄区域間の違いを無視するか、低減することで職業の前進を図ることは単純にはできないことも学びました。代わりに、これらを認識して実施する必要があります。これについては、米国内の場合よりも国際的な状況でまさしく該当します。それは、法的、規制上、および経済上の違いは全米 50 州間よりも国家間の方が大きくなるためです。IAA がどのように対処しても、これらの国家間の管轄区域の違いはとどまりますが、アクチュアリーを実践する職業生命を引き続き形成していきます。だからこそ、権限移譲“subsidiarity”の原則がたいへん重要なのです。これは、グローバルな職業が各国・地域の管轄地域に分散されたニーズを満たす唯一の効果的な方法と言えます。

当アカデミーは IAA との提携関係を重要だと考えていますので、次回のシカゴでの審議会においてこの提案された決議について話す機会をいただければ幸いです。

よろしくお願い申し上げます。



ロバート・ベアーリン、会長



トーマス・F・ワイルドスミス 4 世、前会長

Cc: IAA 審議会代表者